

クワシロカイガラムシ（第1世代幼虫）の 防除対策について

令和5年4月21日
埼玉県茶業研究所

本年はクワシロカイガラムシ（以下「クワシロ」）のふ化幼虫の発生ピークは平年より5日程度早い見込みで、クワシロの発生量は平年並と考えられます。本年のふ化幼虫の発生ピークは一番茶摘採期と重なるため、注意してください。

下記の情報を参考に、適切な時期に防除対策を実施しましょう。

なお、防除適期の判断が難しい場合はメール（難しい場合は電話、FAXで。文末に表記）でご相談ください。

1 有効積算温度による推定

各地点の茶株内温度と青梅アメダスのデータから推定したクワシロの防除時期は以下のとおりです。

調査地点	幼虫ふ化の推定ピーク	防除適期
狭山市（笹井）	5月5日	5月6日～9日
所沢市（林）	5月9日	5月10日～13日
入間市（野田） 入間市（木蓮寺）	5月11日	5月12日～15日
入間市（上藤沢） 所沢市（東狭山ヶ丘）	5月13日	5月14日～17日
入間市（茶研）	5月13日	5月14日～17日
青梅アメダスデータ	5月12日	5月13日～16日
青梅アメダスデータ 過去10年平均 (2013～2022)	5月17日	5月18日～21日

2 防除時期のポイント

薬剤による防除適期はふ化幼虫の推定ピークの翌日から4日後程度が目安です。この時期を過ぎるとしだいに防除効果が低下していきます。早めに対策をしましょう。本年は防除時期が一番茶の摘採や製茶時期と重なります。防除時期はあくまでも目安ですので、発生被害が多い場合は、適期から数日遅れても防除対策を行いましょう。一番茶摘採時期と重なり防除が実施できない場合や、周辺ほ場がまだ摘採されておらず薬剤防除が困難だったりする場合は、摘採後に米ぬか処理（約40kg/10a）を実施するか、次世代（7月）の幼虫発生時期の対策を考えましょう。

3 防除対策のポイント

(1) 3月にプルートMCを散布したほ場 この時期は、防除対策の必要はありません。

(2) プルートMCを散布していないほ場

- ・近隣の茶園で摘採が終わっていない場合は、摘採後に防除するようにしましょう。
- ・天敵に影響の少ないアプロードエースフロアブルまたはコルト顆粒水和剤を農薬使用基準に従って散布します。
- ・散布に当たっては茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施してください。
- ・適期より対策が遅れた場合は、薬剤散布直後、または単独で米ぬかあるいは菜種粕（約40kg/10a相当量）を茶株の枝幹に付着するように処理するとクワシロ抑制効果があります。

(3) 更新処理

この時期に深刈りや台切り更新を予定している方は、上記防除適期から1週間以上経過したのちに実施するようにして、幼虫や卵の周辺の茶園への飛散や、機械に付着した虫の他のほ場への持ちこみをしないよう注意しましょう。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう

連絡先：埼玉県茶業研究所

農業革新支援担当 小俣

TEL : 04-2936-1351

FAX : 04-2936-2891

E-mail : omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp